

安城市における 子育て支援の移り変わりと 出生数の変化

安城西中学校 3 年 山下 美羽

(3) 1991年～2010年

1991年度 5期 ... 豊田市長選、市議会議員選
 1992年度 4期 ... 市議会議員選、市議会議員選
 1993年度 5期 ... 市議会議員選、市議会議員選
 1994年度 6期 ... 市議会議員選、市議会議員選
 1995年度 7期 ... 市議会議員選、市議会議員選
 1996年度 8期 ... 市議会議員選、市議会議員選
 1997年度 9期 ... 市議会議員選、市議会議員選
 1998年度 10期 ... 市議会議員選、市議会議員選
 1999年度 11期 ... 市議会議員選、市議会議員選
 2000年度 12期 ... 市議会議員選、市議会議員選
 2001年度 13期 ... 市議会議員選、市議会議員選
 2002年度 14期 ... 市議会議員選、市議会議員選
 2003年度 15期 ... 市議会議員選、市議会議員選
 2004年度 16期 ... 市議会議員選、市議会議員選
 2005年度 17期 ... 市議会議員選、市議会議員選
 2006年度 18期 ... 市議会議員選、市議会議員選
 2007年度 19期 ... 市議会議員選、市議会議員選
 2008年度 20期 ... 市議会議員選、市議会議員選
 2009年度 21期 ... 市議会議員選、市議会議員選
 2010年度 22期 ... 市議会議員選、市議会議員選

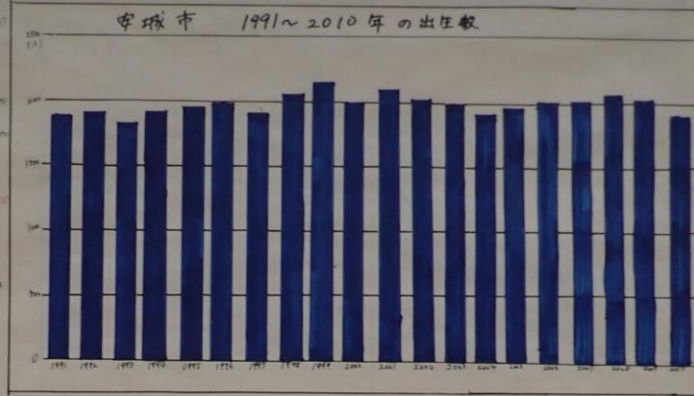


表2つからわかること(グラフ、年表)

出生数 → ① 1991年～1999年まで「増えつづけている」

グラフ → ② 2004年まで「減少傾向だが再び増加する」

③ 1999年に最も増えている

年表 → ① 医療助成制度の適応年齢が3歳～学生になった

② 公共施設が更に多くなった



この時期の出生数は他とは違い波がある。出生数グラフは前記の通り少子化の影響を受け減り続けるかと思えたがむしろ増加している。年表から医療助成制度の適応年齢が広くなっていたり公共施設の建設、スクールヘルパー事業開始など子どもを産む人口が増える原因は多くあると思った。しかしなぜ1970年末期の少子化の影響を受けないのか、また最も出生数の多い1999年にマーマイドパレス開設以外に何があったのか、1991～2010年の間に実施された年表外での出来事を市役所に直接訪問し、話を伺った。

市役所の人の話

① Q. 1999年に出生数が最も多い理由はなんですか？ またその年に市城市で何が実施しましたか？

A. 直接的な要因はわかりませんが、区画整理事業を長年進めてきたことによる人口増加が出生数増加の要因の一つとして考えられます。

② Q. 1991年～2010年までの間に何か特別な制度を実施しましたか？

A. 市城市独自の制度はありません。国の制度創設に伴うものではありますが、児童手当や出産一時金の支給を開始しました。

出産育児一時金(1994年に創設)

1994年10月 30万円
2006年10月 35万円
2009年1月 38万円
2009年10月 42万円
2023年4月 50万円

1999年の「子育てについてのアンケート調査報告書」より、30代~40代の市民で安城市で子育てがしやすいと答えた人は73.4%、子育てしにくいと答えた人は14.3%だった。

考察

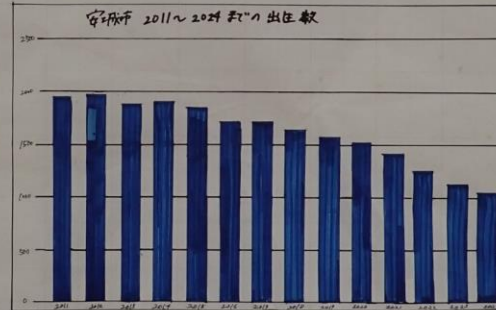
1991年~2010年は1970年と比べると少子化の影響で出生数が減少しているが安城市の支援や公共施設の建設、国の制度によって2000人あたりを保ってきた。

市役所で伺った区画整理事業の話から安城市外から区画整理の影響で引っ越してくる人もいれば「工事終了に伴い、もともと住んでいた人がその土地に戻ってくる」という理由でも人口が増えることがわかった。またマーマイドパレスなどの子どもがのびのびと遊べる公共施設が開設され、親にとって子育て環境で望まれる要素ができた。

これらの人口が増える環境、子育てしやすい環境がそろったことで安城市は少子化が進まなげ、と考えられる。

(4) 2011年~2024年

2011年度 23年 ... 小中学校3校で24校(10校増)
2013年度 25年 ... 各小中学校で学級数削減
2015年度 27年 ... 学級数削減(1校増)
2016年度 28年 ... 学級数削減(1校増)
2017年度 29年 ... 学級数削減(1校増)
2019年度 31年 ... 学級数削減(1校増)
2021年度 33年 ... 学級数削減(1校増)
2022年度 34年 ... 学級数削減(1校増)
2023年度 35年 ... 学級数削減(1校増)
2024年度 36年 ... 学級数削減(1校増)



※1. 出生数は人口動態調査の結果に基づき、出生数が増加していることが確認されています。
※2. この調査は、出生数の増加を目的として実施されたものであり、出生数の増加を目的としたものではありません。



表2つからわかること(グラフ、年表)

出生数グラフ→①2011年から減り続ける

②2024年で1500人をきる

年表→①幼稚園、給食、小中学校の在り方が変化している

②子どもについての企画が開始されている



安城子ども BOOSTERSについて

年表からも読みとれるように安城市は2024年から「安城子ども BOOSTERS」を実施した。

この企画は「ともに育み、未来をつくるしあわせ共創都市」の実現を目指すため、子どもと子育て世代を全力で応援するものだ。

出会いを実現するための縁むすびプロジェクトや不妊治療助成、子どもの医療費無料など多くの支援を行っている。

これらの支援のうち最も力を入れているのは3つの無償化である。
その具体的な内容と予算は以下の通りだ。

①小中学校給食費無償化

→9億7千万円

②第2子以降低年齢児保育無償化

→2億700万円

③子ども医療費助成事業

→11億円

住民基本台帳人口をもとに推計した結果2049年には14歳以下は5000人減少する予測だ。しかし子育て施策の推進により2049年には14歳以下が300人ほど増加することを見込んでいる。

考察

少子化の影響で2011年から徐々に減り続け2021年には1500人を減らした。それに伴い宇城市では子育て施策として子ども中心の子育て中心だけでなく、出会いや結婚など子どもを増やすためにさまざまな視点からの対応がされている。

4 感想

私も最初の1動機で母たちが述べたように宇城市はとても住みやすい町だと思っている。実際宇城市では2024年から「第9次宇城市総合計画」が練られ、その下に先程説明した宇城市子どもBoosterや今年スタートした宇城市子ども計画などがある。

このことから私はそれらの計画の実施に伴って子どもの数は増えていると思う。しかし調査してみると日本の少子化に比例して宇城市も出生数が減少しており、少子化が顕著に表れている。

一方、ヨーロッパなどの他国では日本と比べて少子化があまり進んでおらず人口維持水準を下回っているもののおよそ1.8は保っているようだ。

少子化が進むと年金負担が重くなり、更に医療、介護など社会保障に必要な費用も高くなったりと私たちの将来に大きな影響をもたらすことが考えられる。

調べてみると少子化は思った以上に速く進んでいることがわかった。それをもまえて宇城市はこれから宇城市内だけでなく近隣の市とも協力して対策したり他国の政策も取り入れながらこの問題に立ち向かっていくべきだと思った。

5 参考文献

・宇城市ホームページ

・宇城市史通史編4現代・宇城市史資料編8現代

・訪々何。に中役所の方々→こども健康部、こども課、こども政策係
係長 日倉めぐみさん 専門主査 中村真也さん 遠山祐生さん
保育課 保育経営係 河合弘樹さん